福島県特別支援学校経験者研修Ⅰ　　2008.5.21.

「子どもと係わり合うことの意味」・レジメ

阿　部　幸　泰
（「雑学」HP：　http://www.h4.dion.ne.jp/~dekunobo/　）

Ⅰ：生きる喜び
・人と係わり合う喜び　　・知らないことを知る喜び

・生きる→人間関係→コミュニケーション
（資料：コミュニケーションにおける背景情報）

Ⅱ：支援活動（教育、療育、育児を含め）とは
・支援とは
（資料：自己決定権と支援の関係の模式図）

・「あえて比べず、生きようとする生命が互いに輔け合いながら、
生きるとはどういうことかを問い続ける活動。」

・子どもにとっての大人（親、教師等）のもつ機能
（資料：オ母サンのもつ機能、心の居場所、しつけ　）

Ⅲ：障害のある子ども支援は、まず、親（主に母親）の支援
（資料：Drotar.D.の仮説図
：障害児をもつ親の受容能力への心情の（仮説）層過程模式図
：お母さんの涙に、あなたは何を思いますか
：ある母親の卒業式の保護者代表挨拶原稿を目にして
：家族と係わり合う折に留意していること　）

Ⅳ：関係機関・者の連携とは
すぐれたネットワークとは、まず情報を共有し、地位や立場とは関係なく、
①（担当のケースに抱く）個人的で感覚的な不安や感想も話題にできるような、ざっくばらんな場であることがとても重要。
②そのケースに関わる周囲の人たちが、お互いの大変さや内面の揺らぎを、仲間として支え合うこと。

Ⅴ：プロの資質
「人間相手（支援、教育、育児、保育、療育、等）の仕事には、ゴールはない。
係わるだけでなく、係わり合い続けること。
知識と技術に裏打ちされた知恵をいかに働かせるかのチャレンジ精神と、
自らを検証する勇気が必要。」

「与えられる知識は応用が効かない。求める知識は知恵となる。」

Ⅵ：質　疑